様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	岐阜大学
設置者名	国立大学法人東海国立大学機構

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信	66	22	0	88	13	
地域科学部	地域政策学科	夜・通信		28	0	94	13	
	地域文化学科	夜・通信			0	94	13	
医学部	医学科	夜・通信		0	122.1	188.1	19	
	看護学科	夜・通信			21	87	13	
工学部	社会基盤工学科	夜・通信		6	12	84	13	
	機械工学科	夜・通信			4	76	13	
	化学・生命工学科	夜・通信			7	79	13	
	電気電子・情報工学科	夜・通信			8	80	13	
応用生物学部	応用生命科学課程	夜・通信		0	14	80	13	
	生産環境科学課程	夜・通信			21	87	13	
	共同獣医学科	夜・通信			27	93	19	
社会システム経営学環	－	夜・通信		28	0	94	13	
（備考） ・社会システム経営学環は学科等を設置していない。								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/syllabus.html

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	岐阜大学
設置者名	国立大学法人東海国立大学機構

１．理事（役員）名簿の公表方法

https://www.thers.ac.jp/about/gov/director/index.html

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	一般社団法人会長，株式会社取締役（現職）	2024年4月　1日 ～ 2026年3月31日	機構経営担当
非常勤	岐阜女子大学長	2024年4月　1日 ～ 2026年3月31日	機構経営担当
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	岐阜大学
設置者名	国立大学法人東海国立大学機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） 「シラバス作成のためのガイドライン」を策定し、全学的にシラバス記載内容の統一を図っている。シラバスの代表的な作成過程は以下のとおりであり、毎年３月ごろに公表している。 ＜シラバスの作成過程例：全学共通教育科目＞ ６月下旬　新規開講科目の募集を開始 １１月初旬　会議にて新規開講科目のシラバスを確認し開講可否を決定 １１月下旬　次年度時間割を各教員へ照会 １２月中旬　各教員へ学務情報システムへのシラバス入力を依頼 １月下旬　シラバス入力の期限 ２月上旬　各科目区分の会議体においてシラバスの内容をチェック ３月中旬　WEB シラバスの公表
授業計画書の公表方法：https://alss-portal.gifu-u.ac.jp/campusweb/syllabus.html
２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。
（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要） 各授業科目の学修成果の評価については、岐阜大学学則第 41 条に基づき、取り扱っている。また、「岐阜大学成績評価基準」を策定し、各標語の基準等を明確に定め、公表している。さらに、各授業科目のシラバスにおいては、各授業科目の到達目標を示すとともに、当該到達目標に記載された学修成果の到達度を評価する判断基準や方法、評価割合を明確に定め、公表している。 ***岐阜大学学則　抄*** *(授業科目の成績)* *第 41 条　授業科目を履修した者に対しては，原則として試験を行う。この場合，定期試験は，学期末又は学年末に行うものとする。* *2　履修した授業科目の成績は，前項に規定する試験のほか，研究報告，随時行う試験，出席及び学修状況等により総合判定する。* *3　授業科目の成績は，秀，優，良，可及び不可の５種の評語をもって表し，秀，優，良及び可を合格とする。ただし，卒業研究の成績は，合格又は不合格の評語を用いることができる。* ***岐阜大学成績評価基準*** *https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/value/result.html*

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

「岐阜大学におけるＧＰＡ制度の取扱いに関する要項」を策定しGPAの算出方法を明確にするとともに、同要項を公表している。また、それを基に各学生のGPAを算出し、分布を把握している。

＜GPAの算出方法等（岐阜大学におけるGPA制度の取扱いに関する要項より抜粋）＞

（GPAの種類及び算出方法）

・GPAの種類は，当該学期における学修の状況及び成果を示す指標としてのGPA（以下「学期GPA」という。）及び在学中における全期間の学修の状況及び成果を示す指標としてのGPA（以下「通算GPA」という。）の2種類とする。

・学期GPA及び通算GPAは、次の計算式により算出し、小数点以下第3位を四捨五入する。

（1）学期 ＧＰＡ の計算式

$$\text{学期 GPA} = \frac{\text{（Sの単位数×4）＋（Aの単位数×3）＋（Bの単位数×2）＋（Cの単位数×1）＋（Dの単位数×0）}}{\text{当該学期に履修登録した総単位数}}$$

（2）通算 ＧＰＡ の計算式

$$\text{通算 GPA} = \frac{\text{（Sの単位数×4）＋（Aの単位数×3）＋（Bの単位数×2）＋（Cの単位数×1）＋（Dの単位数×0）}}{\text{入学時以後に履修登録した総単位数}}$$

（GPA対象科目）

・GPA対象科目は、次に掲げる授業科目とする。

1. 評点が0点から4点の5段階によって成績評価されるすべての授業科目とし、認定（N）、合格（G）及び不合格（F）の評価を得た科目は、GPA算出の対象としない。
2. 教育職員免許や学芸員その他の資格取得が目的で、卒業要件単位数に含まれない授業科目についても、GPA算出の対象とする。

（GPA算出基準日）

・GPAは、学期ごとに設けられるGPA算出基準日ごとに更新することとする。

・GPA算出基準日は、原則として前学期にあっては9月下旬、後学期にあっては3月下旬とする。

・教員は、GPA算出基準日までに成績を確定させるものとする。

岐阜大学におけるＧＰＡ制度の取扱いに関する要項

https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/value/result.html

客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/value/result.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 大学全体及び各学部等において「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）を策定し、公表している。 卒業の要件については、各学部にて学部規程に明記し、ホームページ等で公表している。卒業の認定は、岐阜大学学則第 60 条により、当該要件に基づき、各学部教授会にて審議のうえ、学長が認定している。 ***岐阜大学学則　抄*** *（卒業の認定）* *第６０条 卒業の認定は，第１６条に規定する修業年限以上在学し，別に定める授業科目を履修し，卒業要件として定める単位を修得した者について，学長が行う。* *２ 学長は，前項に規定するもののほか，学校教育法第８９条に定めるところにより，学生（医学部医学科及び応用生物科学部共同獣医学科の学生を除く。）が本学に３年以上在学し，卒業の要件として定める単位を特に優秀な成績で修得したと認める場合には，その卒業を認めることができる。* *３ 前２項に規定する卒業の認定は，学年の終わり（秋季入学した者にあっては，第１６条に規定する修業年限に達する学期の終わり）に行う。ただし，学年の終わりに行う卒業の認定を受けることができなかった者については，別に定める時期に認定をうけることができるものとする。* *４ 第１項から前項までに定めるもののほか，卒業の認定に関し必要な事項は，別に定める。* ***各学部の卒業認定の基準*** *https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/value/standard.html*

卒業の認定に関する方針の公表方法	https://www.gifu-u.ac.jp/about/aims/policy_f.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	岐阜大学
設置者名	国立大学法人東海国立大学機構

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.thers.ac.jp/disclosure/finance/index.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.thers.ac.jp/disclosure/finance/index.html
財産目録	（国立大学法人は該当なし）
事業報告書	https://www.thers.ac.jp/disclosure/finance/syohyo/r4.html
監事による監査報告（書）	https://www.thers.ac.jp/disclosure/finance/syohyo/r4.html

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：
https://www.gifu-u.ac.jp/about/objectives/R3_jikotenken.pdf
https://www.orphess.gifu-u.ac.jp/ir/certification/hyoka.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：https://www.niad.ac.jp/media/006/202203/no6_1_1_gifu-u_d202003_3.pdf

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　教育学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.gifu-u.ac.jp/about/aims/purpose_f.html）

（概要）
本学部は，平和で豊かな未来を希求する子どもたちの教育を担う学校教員を養成する学部であり，地域・国・世界の教育と福祉に貢献しうる豊かな人間性と幅広い教養，深い知性と洞察力を持ち，これまでに蓄積された知識を批判的に継承しつつ自ら課題を設定し創造的に解決できる専門的能力を備えた人材の育成を目的とします。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.ed.gifu-u.ac.jp/faculty/policy.html）

（概要）
教育学部は、以下のような教育専門職および教育関係者として必要な能力を備えた者に対し、学士（教育学）の学位を授与します。

社会人としての基本的な能力とコミュニケーション能力
達成すべき水準
・職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な行動について判断する能力がある。
・教職員、保護者、地域の関係者等と良好なコミュニケーションをとることができる素養を身につけている。

子どもを理解し、子どもと関わる能力
達成すべき水準
・子ども理解のために必要な基礎知識を持ち、受容的な態度で接することができる素養を身につけている。
・子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握し統率する素養を身につけている。

教育実践の方法と技術に関する能力
達成すべき水準
・教育の理念、歴史、思想について基礎知識がある。
・教育課程の編成に関する基礎知識がある。
・教科書や学習指導要領の内容を理解している。
・授業を行う上での基本的な方法・技術を身につけている。
・各教科や学習活動に対する評価について理解している。

教科等の指導に関する能力
達成すべき水準
・専門分野についての知識と洞察力、およびそれらを教育現場等に生かす能力を身につけている。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.ed.gifu-u.ac.jp/faculty/policy.html）

（概要）
教育学部は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するため、以下のカリキュラムを実施します。
・各種教員免許状取得に必要な授業科目を開講します。
・実習・実践科目である ACT プラン・プラスをコアとし、 さらに 2 年次には介護等体験を位置付けるなど、教育現場での体験を重視したカリキュラムを展開します。ACT プラン・プラスでは、附属学校をはじめ岐阜県の小・中学校と密接に連携をとり、1 年次の教職トライアル、2 年次の教職リサーチ、3 年次の教職プラクティス、4 年次の教職インターンでの実習を通して、子どもを理解し子どもと関わる能力、社会性やコミュニケーション能力、ならびに教員として必要な基礎知識とその応用力を養います。
・1・2 年次の教養教育において教育学部専門教科の学びの土台を育みます。また、自らの専門性を生かして地域の問題解決に取り組み、地域のリーダーとして活躍できる能力を育成します。
・学年が進むにしたがい教育に関わる教職科目と教育内容の柱となる教科科目、さらに教育方法に関する科目を配置し、教科等の指導力や教育実践の方法と技術に関する能力を育てます。
・4 年次では、1 年次より実習に関する内容等を記録した学修録をもとに、教職実践演習を通して教員の資質（子どもと関わる能力、社会性やコミュニケーション能力、教育実践の方法と技術に関する能力、教科等の指導力に関する能力）を補完します。同時に、大学の学修の集成として卒業論文等を作成し専門分野の知識を深め、洞察力を養います。卒業論文等は複数の教員によって評価します。また、卒業論文発表会等を行うことにより、プレゼンテーション能力を高めます。
・各授業科目は、学修段階での位置付けや順序を明示し、教員養成に必要な内容を体系的に修得できるように編成します。また、GPA 制度、キャップ制を導入し、適正な修得単位数に限定するなど学修時間の確保を通じて単位の実質化を図ります。
・専門とする教科等の授業や演習・実験・実技は、講座のまとまりを活かし、少人数を基本にしながら、講座の特色を生かした内容と方法で実施します。教育実習および教職科目では、講座間のコミュニケーションも大切にしながら実施します。個々の授業科目の学修内容等については、カリキュラムマップとシラバスに記載します。恒常的にカリキュラムを点検し、学修、指導方法の改善に努めます。
以上のような入学から卒業までの 4 年間の学修を支えるため、各学生には教学委員、指導教員等によるアドバイザー制を設け、学修活動を支援します。
学修成果の評価については、全学的な申し合わせ及び各科目のシラバスに記載された成績評価項目等に基づき、授業目標への達成度により評価を行います。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.ed.gifu-u.ac.jp/faculty/policy.html）

（概要）
基本理念
岐阜大学教育学部は、岐阜県を中心として活躍する、優れた専門的知見と指導能力をもつ教員、ならびに社会の多様な学習要求に応える教育専門職及び教育関係者の養成を目的とする学部です。本学部は、教育を通じて、平和で豊かな世界の実現に貢献する人材を育成します。
求める学生像
知識・技能
大学での学修に必要な教科・科目の基礎知識、実技系においてはその基礎的実践能力を有する人
思考力・判断力
知識・技能を批判的に継承しつつ、多様かつ創造的な思考・判断ができる人
表現力
子どもや保護者をはじめ社会の様々な人の声に耳を傾け、自分の考えを適切に表現できる能力をもつ人

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

大学並びに教育実践の場における様々な学修を通じて、自ら進んで他者と協働し、教職に対するよりよい理解を得ようとする人

その他の教育学部が求める要素

・豊かな人間性の上に、教育に対する情熱と責任感を有する人
・岐阜県を中心とした教育現場で活躍できる人
（学校推薦型選抜Ⅱ（ぎふ清流入試）においては、岐阜県内の教員として活躍できる人）

学部等名　地域科学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.gifu-u.ac.jp/about/aims/purpose_f.html）

（概要）

本学部は、人文科学，社会科学及び自然科学の諸専門領域の基盤的研究を維持強化しつつ学際的に協同させることにより、地域概念の多様性を学術文化的に広く探究します。専門的知見と併せて、人間や社会に対する深い洞察力と的確な判断力を備え、より良い地域社会の構築を目指す教育研究を行います。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：http://www.rs.gifu-u.ac.jp/c-d_policy.html）

（概要）

地域科学部では、教育課程において所定の単位数を修得するとともに、地域の社会や文化が抱えるさまざまな問題を、地域に根ざし地域から構想することで解決し、暮らしやすく平和で文化的に高度な地域社会を創り出すために必要な専門的能力を備えた人に学士の学位を授与します。

地域科学部では、岐阜大学で育成すべき基盤的能力を基礎として、以下の専門的能力を備えた人材育成に向けて、能力 の修得・達成を保証するために、厳格な単位・卒業認定を行います。

<u>創造的思考力と論理的思考力</u>

地域社会を取り巻く自然環境および歴史を総合的に把握し、多角的な視点から地域の政策的課題について論理的に分析して創造的な思考ができる。

<u>課題発見力と政策立案力</u>

現代社会の諸課題を発見し、人文科学、社会科学、自然科学の幅広い学問的蓄積をふまえて、個別課題に対する政策を 立案できる専門的能力を身につけている。

<u>コミュニケーション力および実行力</u>

多様な価値観や思想と異なる文化を理解し、それらとの共存と交流を図りつつ、国際的な視野をもって地域社会の形成に参画することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：http://www.rs.gifu-u.ac.jp/c-d_policy.html）

（概要）

文系分野を主とする学生は理系の知識を、理系分野を主とする学生は文系の知識も兼ね備えることで、総合的な視野と幅広い知識を修得します。このために、人文科学、社会科学、自然科学及びそれらの融合領域に関する多彩な科目を開設しています。

・学生自身が学問的関心や興味のある分野を選択して専門的に学ぶことができるように、５つの系統の（産業･まちづくり、自治政策、環境政策、生活･社会、人間･文化）授業科目を開設しています。
・また、教育プログラムとして、国際的な視野から地域研究を行う能力を育成することを目的とした「国際教養プログラム」を設置しています。
・多文化共生の社会で活躍できるようにするために、複数の言語を使った学修を行い、国際的な視野や多様な地域の文化 への関心を培います。

・地域の社会や文化が抱える現実の問題に対して実践的に取り組む方法を学ぶために、全学部生必修科目の社会活動演習と地域学実習の履修を課します。
・初年次セミナー、基礎セミナー、及び専門セミナー（1 学年 4 人以下）において 4 年間を通した少人数でのセミナー教育を行うことで、課題発見力、論理的思考力、コミュニケーション力、表現力を養います。
・学修成果の評価については、全学的な申し合わせ及び各科目のシラバスに記載された成績評価項目等に基づき、授業目標への達成度により評価を行います。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：http://www.rs.gifu-u.ac.jp/admission_policy.html）

（概要）

教育理念・目標

地域科学部は、「地域」がキーワードとなるさまざまな社会的及び文化的課題について、人文科学、社会科学ならびに自然科学の基礎学力をもとにして、総合的に考究する能力を育てることを目標としています。これにより発展的な地域創成や、豊かな社会形成に貢献でき、リーダーシップを発揮できる人の育成を目指します。

求める学生像

このような理念・目標のもと本学部の学生には、主に次のような資質を持っていることを望みます。

1．人間社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。
2．物事をさまざまな視点から総合的かつ論理的に考えることができる。
3．自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
4．他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現する能力を持っている。
5．幅広い学問分野を学びながら、自己の専門分野を次第に決定してゆきたいという意欲を持っている。

学力の３要素について

本学部は、学力の３要素のどの要素も重視しています。知識・技能、思考力・判断力、表現力、主体性を持って多様な人々と 協働して学ぶ態度、その他の要素を相互に関連付け、相互に補い合うように学んでくることを期待しています。

・知識・技能
人間・社会の営みや自然との関わりに基礎的な知識、技能を持っている。

・思考力・判断力
さまざまな視点から総合的かつ論理的に物事を考えることができる。
自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。

・表現力
他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現できる能力を持っている。

・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
自ら課題を見つけ、その課題に対して積極的に取り組もうとする意欲を持っている。
他者の考えをよく理解し、自己の意見を表現できる能力を持っている。

・その他の要素
人間・社会の営みや自然との関わりに深い関心を持っている。

学部等名　医学部医学科

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.gifu-u.ac.jp/about/aims/purpose_f.html）

（概要）

本学部は、医学の基礎と高度な専門知識・技能及び態度を教授することにより、人間、自然、社会に対する豊かな感性と洞察力を持って、世界と地域の医学・医療の発展に貢献できる優れた医療人及び医療系研究者を育成することを目的とします。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.med.gifu-u.ac.jp/outline/3policy/med.html）

（概要）
岐阜大学医学部医学科は、以下のような能力を備えた卒業生を輩出します。
・医療・保健の専門職としての基本的な知識力・判断力・問題解決力
・知識に裏付けされた医師としての基本的技能及び態度
・社会人としての素養を高め、自然科学的・社会心理学的方法を統合して、医学的問題を適切に解決する能力
・生涯にわたって個人・集団としての資質向上をめざし、常に自らを省察し、たゆまぬ自己指導的な学習ができる実践力
本学科は、卒業生の上記能力の修得・達成を保証するために厳格な単位・卒業認定を行い、学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.med.gifu-u.ac.jp/outline/3policy/med.html）

（概要）
岐阜大学医学部医学科は、地域や世界で活躍できる医師を育成するため、以下の方針に基づいて到達目標を明確にした体系的な教育課程を編成し、点検・評価を通じた不断の改革に取り組みつつ実施します。
１．基礎・臨床医学を統合し科学的に生命と向き合う能力を培う
２．学生中心で能動的に学ぶ能力を培う
３．能動的・体験的に問題解決出来る能力を培う
４．同僚・チームとともに学び合う文化を醸成する
５．地域に根ざした教育や英語教育、海外実習等を通じて、国際的な視野を持って地域や社会で活躍できる能力を培う
６．医師としての全人的成長が出来る能力・態度を養う
学修成果の評価については、全学的な申し合わせ及び各科目のシラバスに記載された成績評価項目等に基づき、授業目標への達成度により評価を行います。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.med.gifu-u.ac.jp/outline/3policy/med.html）

（概要）
教育理念
岐阜大学医学部医学科は、人間、自然、社会に対する豊かな感性と洞察力を持って教育・研究・臨床に邁進しています。その理念の下に医学の基礎と高度な専門知識・技能を有し、世界と地域の医療・医学の発展に貢献できる優れた医療人・医学研究者を育成することを最大の使命としています。
求める学生像
１．広い視野と豊かな教養を持ち、医学の修得に必要な基礎知識と学習スキルを持つ人
２．自ら考えて積極的に行動し、その結果を省察できる人
３．協調性に富み、相手の立場を尊重しつつ、自らの考えを表現できる人
４．向上心を持ち、仲間とともに生涯にわたり学ぶ意欲と探究心を持つ人
５．地域や国際社会で貢献する意志を持つ人
６．責任感と倫理感が強く、人間性豊かで、生命に対する畏敬の念を持つ人
学力の３要素について
知識・技能
広い視野と豊かな教養を持ち、医学の修得に必要な基礎知識と学習スキルを持つ人
思考力・判断力
自ら考えて積極的に行動し、その結果を省察できる人
表現力
協調性に富み、相手の立場を尊重しつつ、自らの考えを表現できる人
主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
（a）向上心を持ち、仲間とともに生涯にわたり学ぶ意欲と探究心を持つ人

(b) 地域や国際社会で貢献する意志を持つ人
(c) 責任感と倫理観が強く、人間性豊かで、生命に対する畏敬の念を持つ人

学部等名　医学部看護学科

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.gifu-u.ac.jp/about/aims/purpose_f.html）

（概要）
本学部は、医学の基礎と高度な専門知識・技能及び態度を教授することにより、人間、自然、社会に対する豊かな感性と洞察力を持って、世界と地域の医学・医療の発展に貢献できる優れた医療人及び医療系研究者を育成することを目的とします。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.med.gifu-u.ac.jp/outline/3policy/nur.html）

（概要）
岐阜大学医学部看護学科では，岐阜大学で育成していく基盤的能力を基礎として，以下のような能力を備えた人材育成に向けて，能力の修得・達成を保証するために，厳格な単位，卒業認定を行います。

1．倫理性：人の尊厳と、生命を尊重し倫理性に基づいて行動できる能力
2．対象理解：深い教養に基づき広く世界に関心を持ち、多様な文化的背景を持つ人を生活者として理解する能力
3．看護実践力：看護の対象の健康課題に対し科学的根拠に基づいた質の高い看護が実践できる能力
4．協働・調整・リーダーシップ：保健医療福祉チームの一員として、看護および他職種の役割を理解し、協働・調整し、リーダーシップを発揮する能力
5．探究・創造・革新：看護上の課題を探究し看護を創造革新するための基礎的な研究能力
6．専門職意識：看護専門職として自覚を持ちグローカルな視点で目標にむかって自己研鑽できる能力

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.med.gifu-u.ac.jp/outline/3policy/nur.html）

（概要）
カリキュラムは、入学時から卒業後まで一貫性・整合性をもった教育体制をとることにより、看護に関して初学者である学生が段階的にディプロマポリーの５つの能力を修得して いくための教育プログラムです。

1．主体的で自律的な姿勢を尊び、人々の生活背景、社会･文化的背景に視点を向け、看護 を必要とする人々を生活者として捉え人間性豊かな、そして根拠ある看護実践を展開する能力が習得できるよう教養教育、専門基礎科目、専門科目の３群からなる教育課程の編成としています。
2．看護を、「人間の健康に焦点を当て、その人とその人を取り巻く環境に働きかけ、人間が健康に生き、安らかな死を迎え、さらに健全な次世代の育成を援助する実践である」と捉え、看護実践の基盤となる専門基礎科目から看護実践に関する専門科目への積み上げによる配置としています。
3．多様な場で様々なライフサイクルにある人々との交流から、生活者としての価値観、生活習慣、健康の考え方を知り、グローカルな視点で看護の役割を考えます。学年を横断して取り組む学習を取り入れ、上位学年のリーダーシップ能力を磨きます。
4．講義・演習・実習において、看護専門職として多様な価値観を持ち総合的な判断ができる能力、他職種と協働して活動ができるようコミュニケーション能力、リーダーシップ、コーディネーターの役割が担える能力の向上を意図としたアクティブラーニングを取り入れる工夫をしています。また、主体的で自律的に何事にも取り組める姿勢や自己 研鑽する態度を推進していきます。

学修成果の評価については、全学的な申し合わせ及び各科目のシラバスに記載された成

績評価項目等に基づき、授業目標への達成度により評価を行います。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.med.gifu-u.ac.jp/outline/3policy/nur.html）

（概要）
看護学科は、看護学をはじめ保健・医療・福祉の各分野に貢献できる人間性豊かで倫理観に富む資質の高い看護の専門職を養成するとともに、看護学の教育研究の推進も目指します。 少子高齢社会の到来や疾病構造の変化など、保健・医療・福祉分野が担う役割は複雑化、高度化しています。さらに活躍の場は医療施設にとどまらず、地域へと拡大しています。看護学科では、保健・医療・福祉に関する深い関心を持った学生を求めています。以下のような資質が必要となります。

求める学生像

・看護学の修得に必要かつ十分な基礎的な知識・技能及び教養を持っている人。
・身につけている知識・教養をもとに多角的に物事をとらえ、論理的に思考し、判断ができる能力を持っている人。
・高い倫理観に支えられ、自分を律する能力を持っている人。
・他者の意見や気持ちを理解できるように努め、自己の考えを的確に表現し、伝える能力を持っている人。
・看護をはじめさまざまな学問分野に興味・関心を持ち、真実を知ろうという科学的探求心に富み、自己学習意欲が旺盛である人。
・他者の意見を傾聴し、相手を尊重しながら互いに協力して学ぶことができる人。
・自己、周囲の変化に応じて対応できる能力を持っている人。
・自己の心身の健康に留意し行動できる力を持っている人。

学部等名　工学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.gifu-u.ac.jp/about/aims/purpose_f.html）

（概要）
本学部は、社会、自然、文化等に深い見識、優れた感性、健全な心と倫理観を持つと同時に、専門的職業能力を支える基幹的な体系化された学問を修得し、個性に応じて専門的特化型から幅広い総合型までの多様な能力を持った、人間性豊かで創造力に富んだ技術者の育成を目指します。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：http://www.eng.gifu-u.ac.jp/faculty/gakubu-Purpose.html）

（概要）
岐阜大学工学部は、以下のような能力を備えた卒業生を輩出します。
１．ものづくり等の技術者として研究開発を推進できる基礎学力と創造力（基礎学力と創造力）
２．幅広い教養、深い見識、社会人としての責任感に基づく倫理観と判断力（倫理観と判断力）
３．問題を解決するための方法を忍耐強く探索する能力（忍耐強く探索する能力）
４．研究開発を行うためのコミュニケーションスキル、協調性（協調性）

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：http://www.eng.gifu-u.ac.jp/faculty/gakubu-Purpose.html）

（概要）
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を実現するため、以下のカリキュラムを実施します。
・工学の基礎となる数学、物理、情報処理およびコミュニケーションツールとしての英語の修得、さらに専門とは異なる分野の概論の履修を通して、研究開発に必要な基礎学力を養成します。
・人文科学、社会科学等からなる全学共通科目を開講し、幅広い教養、深い見識、倫理観、

判断力を養うとともに、豊かな知性と人間性を育みます。
・専門分野の講義に加え、演習・実験を配し、学理の基礎と応用を実践的に修得させるとともに、問題解決方法を探索する能力を涵養します。
・指導教員や大学院生との討論を通し、研究開発のための総合的なコミュニケーション能力、協調性、論理的な記述力、問題解決能力を養う場として卒業研究を課します。
・きめ細かく学習プログラムの進捗を自己認識させ、修学意欲を高めるようにします。
学修成果の評価については、全学的な申し合わせ及び各科目のシラバスに記載された成績評価項目等に基づき、授業目標への達成度により評価を行います。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：http://www.eng.gifu-u.ac.jp/faculty/gakubu-Purpose.html）

（概要）

求める学生像

本学部では、２１世紀の社会を支える先端的な工業技術に対する深い関心があり、以下のような資質を持った学生を求めています。

１．先端的な工学の理解に必要な数学・理科に関する基礎的学力を充分に備えている人
２．理解力に富み、論理的な思考ができるだけではなく、柔軟性があり、新しい発想ができる人
３．相手の意見に耳を傾け，自分が伝えたいことを表現できる人
４．知的好奇心にあふれ、自主的な勉学意欲に富む人
５．国際社会で活躍するためのコミュニケーション能力を備えている人

多様な入試を実施し、個性の異なる学生を受け入れて積極的に活性化を図っています。

学部等名　応用生物科学部

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.gifu-u.ac.jp/about/aims/purpose_f.html）

（概要）

本学部は，以下のような能力を養うための教育を組織的に展開し，広く生物科学・生命科学や関連産業に貢献できる人材を養成します。

（ａ）生物科学・生命科学の学理を究明する力
（ｂ）変貌する社会環境に対して主体的に対応する力
（ｃ）変貌する社会において自ら将来の課題を設定する力
（ｄ）幅広い視野・経験と広い専門的知識に基づき柔軟かつ総合的な判断を自ら下す力

卒業の認定に関する方針
（公表方法：http://www.abios.gifu-u.ac.jp/philosophy/threepolicy.html）

（概要）

応用生物科学部は、生物科学・生命科学・生物環境科学の学理を究め、それらと関連した技術を開発し、それらの成果を生物産業や持続可能な生物生産、人間を含む生態系の保全およびヒトと動物との共生に応用することでより良い社会を実現することを理念としています。この理念を実現するため、以下の力を兼ね備え、応用生物科学に関する総合的な能力を有する者に対して学士の学位を授与します。

(a) 技術者に求められる高い倫理観を持ち、真摯な姿勢で課題に取り組むことができる。
(b) 変貌する社会環境に対して自ら課題を設定し、主体的に対応できる。
(c) 社会における自分の役割を自覚し、他者と協力して取り組むことができる。
(d) 応用生物科学の学理と技術を修得し、生物産業の発展や持続可能な生物生産、人間を含む生態系の保 全およびヒトと動物との共生などに応用できる。
(e) 幅広い視野・経験と広い専門的知識に基づき柔軟かつ総合的な判断ができる。
(f) 自分の考えや判断を適切な方法で的確に表現できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：http://www.abios.gifu-u.ac.jp/philosophy/threepolicy.html）

（概要）
応用生物科学部では（a）「全学共通科目」、（b）「教養基礎科目」、（c）「専門基礎科目」及び（d）「専門科目」の４つの科目区分による体系的なカリキュラムを編成するとともにe.「卒業研究」を課し、高い倫理観と幅広い視野、柔軟性および応用生物科学の専門的能力を兼ね備えた総合的な能力を有する人材を育成します。

（a）「全学共通科目」では、学士として身につけておくべき基礎知識に加えて、幅広い視野と柔軟性を育むため多様な学問分野の科目を修得させます。

（b）「教養基礎科目」では、技術者に求められる倫理観を涵養するとともに、専門科目を学ぶための自然科学の基礎的素養を修得させます。

（c）「専門基礎科目」では、各課程で学ぶ専門知識に必要な基礎力を修得させます。

（d）「専門科目」では、各コース教育で習得する専門知識、技能及び実践力を修得させます。

（e）「卒業研究」では、幅広い視野と専門的知識に基づく柔軟かつ総合的な判断力を養うため、個々の未解決な課題に主体的かつ真摯に取り組ませ、課題探求の過程において、専門技術者としての倫理観の熟成をはかるとともに他者との協同性を育みます。同時に、その結果を論文に取りまとめ、口頭で発表させることにより表現力を磨きます。

学修成果の評価については、全学的な申し合わせ及び各科目のシラバスに記載された成績評価項目等に基づき、授業目標への達成度により評価を行います。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：http://www.abios.gifu-u.ac.jp/philosophy/threepolicy.html）

（概要）

求める学生像

応用生物科学部は、応用生物科学の学理を修得し、生物産業の発展や持続可能な生物生産、人間を含む生態系の保全およびヒトと動物との共生などの分野で活用することによってより良い社会を実現したいと考える学生を求めています。

このためには、大学での学修に必要な基礎知識や技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性などの資質が必要です。応用生物科学部では、これらの資質を多様な入試で判定し、応用生命科学課程、生産環境科学課程及び共同獣医学科の具体的な目標の達成のために強い意欲を持って学習に励む学生を受け入れます。

受け入れる学生に求める学習成果

本学部は、「学力の３要素」を次のように４要素に再分類し、これまでの学習の成果を評価します。

知識・技能

応用生物科学の学理の理解に必要な基礎能力、課題に対する知的好奇心

思考力・判断力

科学的な思考、科学的な根拠に基づいた適切な判断

表現力

相手の意見に耳を傾け、自分の考えを的確に伝える

主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

独創的な取り組み、他者との協調性

学部等名　社会システム経営学環

教育研究上の目的
（公表方法：https://www.gifu-u.ac.jp/about/aims/purpose_f.html）

（概要）
本学環は、経営及びマネジメント教育を基盤的教育として実施し、ビジネス・まちづくり・観光の３視点から、新たな発想や実践によって問題を解決して時代を拓く能力を持つ人材、地域の企業、自治体、各種団体の経営を協働的かつ主体的に担うことができる人材を養成することを目的とします。

卒業の認定に関する方針
（公表方法：https://www.ssm.gifu-u.ac.jp/#policies）

（概要）
社会システム経営学環は、本学が定めた基盤的能力及び社会システム経営学環で養成する人材像に適した、社会の課題解決に資する卒業生を輩出することを目標として、卒業時に以下のような専門的能力を身に付けた者に学士の学位を授与します。

1．［多面的思考力］豊かな教養に基づき、幅広い視野で社会システムの変化を捉え、多面的視点で課題解決に取り組むことができる能力。
2．［データ分析・論理的思考力］課題発見・解決のために多様なデータを収集・分析し、論理的に結論を導き出す能力。
3．［コミュニケーション力］高いコミュニケーション能力と高度なコーディネート力により多様な人材間の調整を図り問題解決に臨む能力。
4．［デザイン思考による課題発見・解決力］デザイン思考 を活用して企業、自治体、各種団体が抱える課題をユーザーの立場から発見し、課題解決に臨む能力。
5．［専門知識とマネジメント力］専門知識を修得し、高い倫理観に基づいて、企業や自治体などを運営する能力。
6．［起業力と社会貢献力］起業家精神により新しい価値を生み出すことで、活力ある社会システムの実現に貢献できる能力。

教育課程の編成及び実施に関する方針
（公表方法：https://www.ssm.gifu-u.ac.jp/#policies）

（概要）
社会システム経営学環では、養成する人材像、ディプロマ・ポリシーを実現するため、教育課程の基本的な考え方を踏まえ、以下のとおりカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1．教養科目では人文科学、社会科学、自然科学の修得と外国語科目によるコミュニケーション能力の向上を通して、社会事象を国際的な視野で読み解く豊かな教養を育むとともに、一年次の初年次セミナーでは高等学校における教科書中心の受動的授業から大学における実習を軸とした能動的授業への移行を支援する。
2．専門基礎科目として、統計学、情報処理演習、現代経済学、会計学といった授業科目を配置し、ビジネス・まちづくり・観光に共通する基本的マネジメント能力としてデータ分析に必要な基礎学力や論理的思考力を養成する。
3．ビジネス、まちづくり、観光を対象とする専門科目を配置して、リフレクション（振り返り・省察）、学修ポートフォリオ、コメントシート（意見・感想）、グループワーク、プレゼンテーション等のアクティブ・ラーニングにより専門知識とマネジメント能力を養成する。
4．企業、自治体、各種団体におけるマネジメント活動実習、ビジネスデザイン実習、まちづくりデザイン実習、観光デザイン実習を通して、多様な人材間の調整、課題発見・解決方法を実践的に学ぶ。
5．教育学部、地域科学部、工学部、応用生物科学部など、他学部の開講授業科目、さらに名古屋大学と連携して開講する授業科目を能動的に選択して履修することで、関連した分野における知識を深める。
6．学修成果の評価については、全学的な申し合わせ及び各科目のシラバスに記載された成績評価項目等に基づき、授業目標への達成度により評価を行う。

入学者の受入れに関する方針
（公表方法：https://www.ssm.gifu-u.ac.jp/#policies）

（概要）
社会システム経営学環では、豊かな教養と健全な心を養います。同時に専門知識とマネジメント力、デザイン思考による課題解決力を育みます。これらにより、人間性豊かで地域社会で活躍する人材の育成を目指します。 民間企業、自治体、NPO などの運営に深い関心を持つ学生を求めています。

1．国内外の社会全般に高い関心を持ち基礎的学力を充分に備えている人。
2．理解力に富み論理的な思考ができる人。
3．相手の意見を聴き自分の考えを伝えて協働することができる人。
4．積極的に行動することをいとわず多くの経験を積むことを楽しむ人。
5．知的好奇心にあふれ自ら地域の課題を理解し、解決策を探究しようとする人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.gifu-u.ac.jp/about/overview/courses_f.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	7 人	－					7 人
その他	－	270 人	245 人	45 人	247 人	1 人	808 人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0 人	532 人	532 人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：https://www.gifu-u.ac.jp/about/information/teaching/results.html

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a.入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
教育学部	220 人	233 人	105.9%	880 人	962 人	109.3%	-人	-人
地域科学部	100 人	104 人	104.0%	420 人	449 人	106.9%	10 人	10 人
医学部	190 人	191 人	100.5%	980 人	971 人	99.1%	-人	-人
工学部	510 人	530 人	103.9%	2,100 人	2,217 人	105.6%	30 人	22 人
応用生物科学部	190 人	197 人	103.7%	840 人	884 人	105.2%	10 人	8 人
社会システム経営学環	30 人	31 人	103.3%	120 人	125 人	104.2%	-人	-人
合計	1,240 人	1,286 人	103.7%	5,340 人	5,608 人	105.0%	50 人	40 人

（備考）

b.卒業者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数（自営業を含む。）	その他
教育学部	232 人 (100%)	33 人 (13%)	196 人 (83%)	3 人 (4%)
地域科学部	120 人 (100%)	4 人 (4%)	111 人 (92%)	5 人 (4%)
医学部	186 人 (100%)	0 人 (2%)	178 人 (41%)	8 人 (57%)
工学部	545 人 (100%)	382 人 (67%)	141 人 (30%)	22 人 (3%)

応用生物科学部	202 人 (100%)	103 人 (48%)	92 人 (47%)	7 人 (5%)
合計	1,302 人 (100%)	503 人 (39%)	652 人 (50%)	147 人 (11%)

（主な進学先・就職先）（任意記載事項）

教育学部：公立学校教員、公務員(岐阜県等)　地域科学部：公務員(厚生労働省等)、金融機関　医学部：岐大病院、公立病院　工学部：公務員(名古屋市等)、デンソー　応用生物科学部：公務員(名古屋市等)、コモ

（備考）

社会システム経営学環は令和３年度設置であり、卒業生を輩出していない。

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
教育学部	260 人（100%）	222 人（85%）	28 人（11%）	10 人（4%）	0 人（0%）
地域科学部	120 人（100%）	109 人（91%）	9 人（8%）	2 人（2%）	0 人（1%）
医学部医学科	111 人（100%）	94 人（85%）	9 人（8%）	8 人（7%）	0 人（0%）
医学部看護学科	80 人（100%）	71 人（89%）	4 人（8%）	5 人（7%）	0 人（0%）
工学部	569 人（100%）	490 人（86%）	63 人（11%）	15 人（3%）	1 人（0%）
応用生物科学部（応用生命，生産環境）	177 人（100%）	166 人（94%）	8 人（5%）	3 人（2%）	0 人（0%）
応用生物科学部（獣医学科）	32 人（100%）	29 人（91%）	1 人（3%）	1 人（3%）	1 人（3%）
合計	1,349 人（100%）	1,181 人（89%）	122 人（8%）	44 人（3%）	2 人（ 0%）

（備考）
・社会システム経営学環は令和３年度設置であり、卒業生を輩出していない。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）【様式第２号の３より再掲】

「シラバス作成のためのガイドライン」を策定し、全学的にシラバス記載内容の統一を図っている。シラバスの代表的な作成過程は以下のとおりであり、毎年３月ごろに公表している。

＜シラバスの作成過程例：全学共通教育科目＞
６月下旬　新規開講科目の募集を開始
１１月初旬　会議にて新規開講科目のシラバスを確認し開講可否を決定
１１月下旬　次年度時間割を各教員へ照会
１２月中旬　各教員へ学務情報システムへのシラバス入力を依頼
１月下旬　シラバス入力の期限
２月上旬　各科目区分の会議体においてシラバスの内容をチェック
３月中旬　WEB シラバスの公表

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）【様式第２号の３より再掲】

各授業科目の学修成果の評価については、岐阜大学学則第 41 条に基づき、取り扱っている。また、「岐阜大学成績評価基準」を策定し、各標語の基準等を明確に定め、公表している。さらに、各授業科目のシラバスにおいては、各授業科目の到達目標を示すとともに、当該到達目標に記載された学修成果の到達度を評価する判断基準や方法、評価割合を明確に定め、公表している。

卒業の要件については、各学部等にて定め、公表している。卒業の認定は、当該要件に基づき、各学部教授会にて審議のうえ、学長が認定している。

学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
教育学部	―	135 単位	有	28 単位
地域科学部	―	131 単位	有	(教養科目のみ)36 単位
医学部	医学科	205.5 単位	有	(教養科目のみ)24 単位
	看護学科	131 単位	有	(教養科目のみ) 22 単位/前学期 20 単位/後学期
工学部	―	132 単位	有	30 単位 (1 年次のみ)34 単位
応用生物科学部	応用生命科学課程 生産環境科学課程	128 単位	有	30 単位
	共同獣医学科	183 単位	有	30 単位
社会システム経営学環	―	128 単位	有	26 単位 ただし （直前の学期のGPA が 2.5 以上の場合） 28 単位 （直前の学期のGPA が 1.5 未満の場合） 24 単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
キャンパスガイド　https://www.gifu-u.ac.jp/campus_life/student/campusguide.html
岐阜大学概要　https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/gaiyo.html
交通アクセス　https://www.gifu-u.ac.jp/access/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 （年間）	入学金	その他	備考（任意記載事項）
全学部	―	535,800 円	282,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 教育推進・学生支援機構基盤教育センターでは、授業時間内外において学生が能動的な学修を行えるよう支援する e-Learning システム「TACT」を運用しており、授業を担当する常勤教員が様々な形で TACT を利用しています。また、能動的な学びを展開できる場としてアカデミックコモンズ（アカデミック・コア、アクティブ・ラーニング教室、メディアコモンズの総称）を開設し、学生同士のディスカッションやプレゼンテーションで学びを深める場を提供しています。
b.進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 教育推進・学生支援機構学生支援センターでは、キャリア・学生支援センターを設置し、学生の進路選択に係る支援を実施する体制を整えています。同センターでは、社会的・職業的自立を図るキャリア形成に向けて充実した学生生活が送れるよう支援し様々な問題や悩みの相談に応じています。また、学務部学生支援課就職支援室では、受け付けた求人票を公開し、就職活動参考書、セミナーを実施しています。
c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） 保健管理センター、学生相談室及びキャンパスヘルパーが連携を取り、学生支援を行っている。保健管理センターには、内科医、精神科医、臨床心理士、看護師等を配置し、学生の心身の健康管理支援を行うとともに、障害がある学生をはじめ、大学生活を続ける上で様々な困難を抱えた学生を支援すべく障害学生支援室を設置し、スタッフを配置している。その他、キャンパスライフヘルパーを各学部等や学務部などの教職員複数名が担当し、勉学上や学生生活で困っていること、友人関係の悩みや各種ハラスメントの窓口となっている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：https://www.gifu-u.ac.jp/about/information/teaching.html

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F121110105976
学校名（○○大学 等）	岐阜大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	国立大学法人東海国立大学機構

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		341人	349人	366人
内訳	第Ⅰ区分	202人	204人	
	第Ⅱ区分	74人	93人	
	第Ⅲ区分	65人	52人	
	第Ⅳ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				369人
（備考）				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第１号、第２号、第３号、第４号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	－	人	人
修得単位数が標準単位数の５割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の５割以下）	－	人	人
出席率が５割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	0人	人	人
計	－	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の６割以下 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の６割以下）	0人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	31人	人	人
出席率が８割以下その他学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	31人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。